
方城時雨の奇妙でイカれた学園生活

水面出

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

方城時雨の奇妙でイカれた学園生活

【Nコード】

N9012X

【作者名】

水面出

【あらすじ】

中3のある日方城時雨の元に届いたとある学園の入学許可通知。それは波乱に満ちた学園生活の始まりの合図だった・・・

ブログ 入学許可通知 来る！（前書き）

はい！始めさせていただきます！初の小説です！まだまだ未熟ですが、暇があったらどうぞ読んでください！

ブローグ 入学許可通知 来る！

「入学許可通知？俺に？」

「そうだよ」

姉さんからの突然の知らせに？マークな俺。

「え？なんか話が見えて来ないんだけど・・・」

実際訳が分からなかったんだ。そりゃ確かに俺は受験生（高校のな）で、今は10月だ。

はつきり言うつと進路はまだ決まってない。さすがに少し焦っている。と言つても俺の学力なら大体どこでも入れるけどな（えっへん）。

で、話を戻すけど、何で今入学許可通知なんかが来るんだ？

一般入試は2月、推薦入試は1月だ。それにどんなに早く進路が決まっても12月くらいになる筈だ。それなのにまだ希望すら決めてない奴に、しかもこの時期に入学許可通知が来るなんて摩訶不思議極まりないことだ。ぶっちゃけあり得ないだろ。

「姉さん、順を追って説明してくれ。」

「何？姉さんのスリーサイズが聞きたいの？」

誰がそんなこと言つた！？

「もー、時雨つたら・・・でも・・・時雨にだったら教えてあげてもいいよ？」

「興味ない。というか聞いてない」

「むー・・・」

何ほつぺたをふくらましてんだよ・・・

「だから姉さん、何でこんな通知があるのかって聞いてんだよ」
「ポストに入ってた」

当たり前前を答えをありがとう。

「時雨く、『姉さん』じゃなくて昔みたいに『小夜お姉ちゃん』
って呼んでほしいな」

「断る。そして俺の質問に答えろ」

少しイライラしてきたわ。

「冷たいなぐでもそこが好き」

頭痛くなってきた・・・

「クールな時雨と・・・あんなことやこんなことを・・・」

あ、もう駄目だこのバカ。

「もういい、とりあえずよこせ」

「あ・・・」

俺は姉さん（バカ）から通知をとった。

「ええと・・・」

【方城時雨殿

貴殿が我が光天寺学園に入学することを許可します。

入学式は4月6日朝9時からです。

学園の場所は地図を同封していますのでそれを参考にしてください。
尚、我が学園は全寮制なので当日は必要な荷物を持って登校してください。

それでは会えるのを楽しみにしています。

光天寺学園理事長

湖倉 薊

」

・・・何だこりや・・・

「全・・・寮・・・制・・・？」

あ、なんか姉さんの顔が険しくなってる・・・

「そんな・・・時雨と毎日会えないなんて・・・」
バカ発言3秒前

2

1

「姉さん死んじゃうよ~~~~~!!」

いつそのこと一回死んでみたらどうだ？

少しはバカが治るかも知れないぞ？

「や〜だ〜！時雨と離ればなれになるなんて〜！姉さんおしまいだよ〜！この世の終わりだよ〜！」

大げさ過ぎだ・・・

それにしても・・・

光天寺学園・・・ね・・・

聞いたことない学校だが・・・

他に特に行きたいところがあるわけでもないし・・・

なんか面白いことありそうな感じだし・・・

よし・・・！

行ってみつか！！

ブログ 入学許可通知 来る！（後書き）

はい！ブログ終了です。次回は人物紹介をさせていただきます。

人物紹介 Part 1（前書き）

どうも。今回は人物紹介です。といっても二人だけですが・・・

人物紹介 Part 1

人物紹介

名前：方城時雨

性別：男

身長：171.5?

血液型：A型

誕生日：9月5日

本作の主人公

髪は黒で短い。

両親は10に亡くなっており、現在は姉と一緒に暮らしている。

基本的な性格は面倒くさがり屋で問題に巻き込まれることが嫌い。

だが自分の大切なものを侮辱されたり傷つけられたりすると感情を押さえられなくなる。

自己中ではないが他人の都合もあまり考えない。

ルックスは一言で言ってしまうえば超イケメン。

さらに頭脳は天才的に良いし運動神経も並みのレベルではない。
そのため小・中共に異性にモテていた。

ただ本人は恋愛感情には非常に疎く、好意を寄せられても全く気付

かない程鈍い。
いわゆる唐変木。

好きなものは魚介類、漫画、ゲーム、面白いこと。

肉類、野菜類も普通に食べるが魚介類はそれらの10倍は多く食べる程好きである。

漫画は約1000冊

ゲームは約100本持っている。

面白いことが好きなのは単純に面白いからである。

嫌いなものは面倒くさいこと、芳香剤の匂い、ミョウガ。

面倒くさいことは前述の通り。

芳香剤は人工的に加工された匂いが嫌いらしい。

ミョウガはなんか好きになれないらしい。

姉の小夜に関してはバカでブラコンどうしようもない姉だと思っているが、両親が亡くなってからいつも一緒に居てくれたのは小夜なのでそこは感謝している。

小夜がピンチの時は助けたり、料理を作ったり、世話を焼い

たり、色々してやってる。

なんだかんだ言ってもやっぱり小夜は大切な存在だと思っている（
本人はそういう事は話したがないが）

趣味は料理。

その腕前はプロをはるかに越えている。

レパートリーは500種類以上あるらしい。

光天寺学園から入学許可通知が来てそこに入学することを決めた。

これから何が起こっていくのやら・・・

名前：方城小夜

性別：女

身長：161.1？

血液型：A型

誕生日：7月13日

時雨の姉。

現在は大学1年生。

超がつくブラコン。

夜中にこっそり時雨のベッドに入り込んできたり

ところ構わず時雨に抱きついてきたり

一緒にお風呂に入ろうとしてきたり

さらには友達に

「彼氏いるの？」と聞かれた時に、

「時雨〜！」と答えたり

最早ブラコンのレベルを越えているかもしれない。

だがそれは時雨を誰よりも大切にしている（少々やり過ぎだが）からこそやっているのだ（というかそう信じたい）。

頭は時雨程じゃないが良い方である。

ちなみに現在通っている大学は国立六桜大学。

選んだ理由は講義の短さ。

バイトをするためだ。生活費は資産家の叔父から月20〜30万程送られてくるが、それだけだとちょっと足りない為である。

運動は苦手である。

容姿は普通に美人である。

好きなものはもちろん時雨。

それと時雨の好きなものも好き。

嫌いなものは時雨に敵対する奴と気に入くない奴。

前者はまだ良いとして、後者は完全に私情。

体のラインは良い感じである。

出てるところはちゃんと出てるし、しまっているところはきちんとしまっている。

時雨が全寮制の学校に入る事になったとき駄々をこねた。

今回はこの二人で終了です。

人物紹介 Part 1（後書き）

はい、今回は終わりです。

次回予告

時間の流れは速く・・・入学の日になった・・・
そこで待ち受けていたのは・・・！

次回

入学式とクラス

e p 1 入学とクラス（前書き）

第一話です。ちょっと文章おかしいところあるかもしれませんが、ご勘弁を。私の文章力ではこれがげんかいです・・・

ep1 入学とクラス

「ここ・・・か・・・」

俺は通知に入っていた地図を頼りに来た。

「結構でかいんだな・・・」

現在日時

4月6日9時

場所は光天寺学園（だっけ？）正門前。

時の流れは速いもんだな・・・

あの通知がきてから

俺は残りの中学生生活をエンジョイした。

そしてそのまま普通に卒業と・・・

結構名残惜しかったな・・・

そんでもって、春休みの間に色々準備したな。

制服買ったり・・・

ってか光天寺学園（だっけ？）って制服の種類半端ねえな・・・軽
く15種類以上あったぞ・・・

しかも改造自由だし・・・

ま、俺は面倒くさいから改造なんざしないけどな。

それに校則も見ただけど・・・

——染髪、アクセサリゲーム、漫画、バイトあり。

まあここまでは良いよな？だけど・・・

——不純異性交遊あり

おいおい・・・

不純って言っちゃってるよ・・・

——いじめあり

あっちゃ駄目だろ！？

——援助交際あり

駄目だ駄目だ駄目だ——！！！！！！

——以上の行為は問題なしとする

問題ありすぎだろ！？

どこに援助交際^{エンコー}OKする高校があるんだよ！？

——尚、この校則にはツッコミ所満載だともわれますが、そこはツッコまないでください

ツッコミたくなるっての！

てかこんなこと書くんならツッコミ所をなくせっての！

・・・っと、脱線してきたたな。話を戻そう。

ここに入學する事になった時、姉さんが超駄々をこねたが、何とかおさめた。

ったく・・・本当にバカな姉だ・・・

さて、この光天寺学園であつてゐるよなは全寮制だ。

俺はしっかり必要なものを持ってきている。

衣類に洗面用具、携帯にPSP、音楽プレイヤー、パソコンのUSBメモリ、その他諸々。

これで退屈になることはないな、多分。

ガヤガヤ・・・

「着いたねー光天寺学園」

「よーし！カッコいい彼氏つくるぞー！」

おお？何か色々やつてる内に他の
新入生もちらほら来てるみたいだな。

んじゃ、俺も行くか。

「ちよつとちよつと！あの人超カッコよくない!？」

「本当！すごいイケメン!」

「ああいう人と付き合ってみたいな」!

・・・何かやたらと視線を感じるんだけど・・・

「ああ！あのお方を私のモノにしたい!」

今危険な発言がきこえたぞ・・・!?

「シャラッホー！ー！ーい!!!!」

「ゴニョゴニョゴニョゴニョ・・・」

・・・よくよく見たら・・・変な奴らが多いな・・・
俺人の事言えねえけどお・・・!!?

「きゃっ・・・」

誰かがぶつかって来た・・・あ、しりもちついちまってる。
しゃーねえ。

「悪い、大丈夫か？」

一応手を差しのべてみる。

「いえ・・・すみませ・・・」

何だ？何か動きが止まったような・・・

・・・ん？

何か見覚えがあるようなないような・・・

そんな風に思ってたら放送がなった。

《連絡します。新入生の皆さんは自分のクラスを確認の後、体育館ホールへ行ってください》

「あ、行かなきゃ・・・」

あ、走って行っちゃったよ。

何か見たことある顔だと思っただがな・・・

思い出せねえ。

ま、いいか。

俺もちゃっちゃと体育館ホールってとこに行かなきゃな。

SIDE???

どうしよう・・・

まさか一緒の高校だなんて・・・

私の事、覚えてるかなあ・・・

5年もあつてないしなあ・・・

でも・・・すごくカッコよくなってたな・・・

・
・
・

は！？

何を考えてたの私！？

・・・でも、もし覚えててくれてたら・・・

勇気出して・・・話しかけてみようかな・・・

S I D E 時雨

ああ・・・やっぱり入学式だの卒業式だの形式的なものは疲れる・・・

次に、理事長からお話をいただきます

・・・そういえば・・・理事長から直接来たんだよな。・・・あ、
当たり前的事だったな。

とりあえずどんな人かは気になるな。

段の上にあがったのは・・・見た目１０歳くらいの女の子だった。

「理事長の湖倉 薊なのじゃ！」

・・・へ？

「入学おめでとうなのじゃ！」

子供・・・だよな・・・
何で・・・？

「こんな子供が理事長で皆びっくりしてると思つのじゃ」

うん、当然だろ。

「ちなみに歳は10歳なのじゃ！」

うん、見た目のまんま。

やっぱりこの学園、ツッコミ所満載だな。

「皆楽しい学園生活を送るのじゃ！」

それは大分前途多難だな。

「これで終わるのじゃ！早くしないと見たいアニメが始まっちゃうのじゃ！」

おいおい・・・子供でも仮にも理事長だろうが・・・
んな適当でいいのかよ・・・？

ありがとうございました

あ．．．いいんだ．．．

その後、入学式は滞りなく終了した。

何だっただんだあの理事長は．．．

あ、そういえば俺まだ自分のクラス見てねえや。

俺の名前は．．．

えゝと．．．2組でもないし3組でもない．．．って事は、

あつた

【方城時雨 1 年 1 組】

1 組か。

何か俺小学校の時も中学の時もずっと 1 組だった気がするんだけど・
・

1 という数字に好かれてんのか？

まあいいや

とにかく、教室に行くと思いますか。

俺は教室がある方へ歩き始めた

e p 1 入学とクラス（後書き）

次回予告

前途多難な俺の高校生活

そんな中 誰かが話しかけてきた

次回 再会

あんまし変わってないもんだな

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9012x/>

方城時雨の奇妙でイカれた学園生活

2011年10月27日02時08分発行